



『関西企業ヒストリア』 ～その強さの秘密・転換点を探る～

創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取りあげ、時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

第31回 創業 1951年(昭和26年)

株式会社 ダイワパックス

パッケージ業界との出会い わずかな資金で起業を決意

1951年▶ 株式会社ダイワパックスの歴史は、1951年に大西節蔵が日栄商会セロファン部として大阪市南区問屋町(現・大阪市中央区)にて創業したことから始まります。

戦中は海軍に所属し、復員後も海軍省人事局第二復員課にて戦後処理業務にあたっていた節蔵は、GHQの人と直接話す機会が少なからずあり、英語の勉強のために図書館で海外の雑誌をよく読んでいました。その時、たまたま手に取った雑誌で、アメリカにおいてパッケージ業界が大変な勢いで伸びていることを知りました。「これから日本の文化もアメリカナイズされていくだろう」と感じていた節蔵は、透明フィルムによるパッケージも日本で伸びるに違いないと確信しました。



大西節蔵氏

節蔵は復員業務を終える1950年まで、仕事の合間にパッケージのことを学んでいましたが、パッケージ業界に人脈はなく、開業資金もわずかしかなかった。それでも強く起業の意思を固めていた節蔵は、そのわずかな開業資金を元手にパッケージ業界に乗り込みました。

節蔵ははじめに、当時の大手セロファンメーカーへ取り引きを申し込みますが、門前払いされてしまいました。別の取引先を探していた節蔵のもとに、東京セロファン紙というメーカーが大阪本町に支店を出したとの話が入りました。早速出かけ、「命がけでやりたい」と思いを訴えると、「できる限りの応援をさせていただきます」との返答を受けました。この言葉によって、同社の第一歩が踏み出せたと言えます。

本格的にセロファンの仕事を始めてから1年半ほどたった頃、節蔵はその働きぶりが評価され、ある人物から融資を受けました。その融資が一大転機となり、1951年、節蔵は大和セロファンを設立、翌1952年には法人組織に改組し、「大和セロファン株式会社」を立ち上げました。



上：当時の大和セロファンの広告
下：天王寺にあった大和セロファンの社屋

徹底したクレーム処理で信用獲得 進化する材料、進歩する技術

1963年▶ 地道な営業活動と徹底したクレーム処理で、業界からも一目置かれ始めた同社は、順調に業績を伸ばしていきました。戦後復興から脱却し、経済成長が大きな伸びを見せ始めた1963年、大和セロファン株式会社は社名を「株式会社大和パッケージ」に変更、新たな一步を踏み出しました。1955年以降、食品産業の急速な成長に伴い、パッケージ産業も発展していきました。特に1958年に登場した

インスタントラーメンの爆発的な需要が、パッケージ産業を急速に発展させました。当時、包装される内容物は、インスタントラーメンのように乾燥食品が主だったため、包装素材もセロファン・ポリエチレン構成という単純な材料で充分でした。



社名変更した頃の社屋

1960年代に入ると、消費者のニーズに応えるため、含水性食品の包装が開始しました。さらに食品を保存するための包装技法である真空包装、ガス置換包装、ボイルあるいはレトルト包装が欧米から導入されました。これらの技法に、熱さや寒さに弱いセロファンは適しません。また、この頃から石油化学工業も急速な発展を見せ、プラスチック原料の価格低下も、プラスチックフィルムの需要を拡大させました。

1965年前後は新しい包装フィルムや加工技術の開発が盛んに行われました。この頃、ヒートシール剤を部分塗付することで熱接着性を持つ二軸延伸ポリプロピレンフィルム(OPP)、強靱で熱に強い特性を持つポリエステルフィルム(PET)が包装市場に参入。1968年にはOPP、PETよりもさらに強靱な強度を持つ延伸ナイロンフィルム(ONY)が登場しました。また、OPP専用インクの開発も進み、1970年には包装用印刷フィルムの主役がセロファンからOPPへ移行しました。



当時の社内の作業風景
パッケージ機械を使用していたが、手作業に頼る工程も少なくなかった。

名神化学株式会社を設立

1972年▶ 1972年、滋賀県甲賀郡(現・甲賀市)に関連会社である「名神化学株式会社」を設立しました。

同社の設立の目的は、責任の持てる軟包装資材を安定供給できる体制を築くためでした。当時の日本では、物品の流通量が増えるとともに医薬品や食品、菓子などの安全性に対する要求が高まり、製造管理や包装システムにも改善が求められていました。4年後の1976年には厚生省によって医薬品のGMP基準が定められました。それに先立って、従来協力工場に依存していたスリッターや製袋加工を目の届く工場で行えるように、印刷部門を担うグループ企業として名神化学を設立しました。



ここが
転換点

**社名を「株ダイワパックス」に変更
創業元年として新たな歩み**

1985年▶ 1985年7月、社名を「株式会社ダイワパックス」に改めました。この節目を創業元年と定め、「生まれ変わるダイワグループ」を重点目標に掲げてさらなる前進を決心しました。

当時、業界内では「パッケージ」を冠する会社が多く、この言葉が持つ意味も、ただ物を箱に詰めるという印象が強くありました。「包装のシステム化」を目標に、日々開発に取り組む同社にとって、社名の「パッケージ」が事業内容とのギャップを生むようになっていました。また、当時はCI(コーポレートアイデンティティ)が重要視され始めた時期でもありました。そこで、同社は社名変更と共に、シンボルマークも制定。軟包装材によって包み込むイメージを中心に、イニシャルの「D」と「P」のフォルムを組み合わせることで、調和と融合を表したシンボルマークを掲げました。



**機能性、実用性を認められ
「保管袋」などが実用新案登録を受証**

1995年▶ 1995年、ダイワパックス考案の「保管袋」3点が、実用新案登録を受けました。保管袋は内面ポリエチレンフィルムに抗菌性を有する物質を練り込み、外面フィルムに忌避効果や静電気防止効果などの機能性を持つフィルムをラミネートしました。この保管袋は雑菌の多い環境

下においても、中に入れた物への菌の増殖を抑止するため、医療機関など衛生管理の徹底が必要な場所での使用に適します。

1997年には瓶体搬送用包装袋など6件の特許および意匠出願、実用新案登録証を受けました。瓶体搬送用包装袋は内外2層の気密性円筒体から形成され、優れた衝撃緩衝力と取り扱いの容易さ、ファッション性を持つ搬送用容器です。



自社開発の瓶体搬送用包装袋

価格競争の厳しい時代へ

2002年▶ 2002年から始まった景気拡大期間は、2006年10月で57か月となり、戦後最長のいざなぎ景気と肩を並べました。日本経済は企業収益の改善が設備投資と個人消費の拡大をもたらす自律的回復のサイクルが働き、慢性的なデフレも解消傾向へと向かいました。

しかし、パッケージ業界では、依然として原油価格は高値圏内にあり、度重なる値上げのあったフィルムは、さらなる価格上昇の可能性をはらんでいました。インキ、溶剤、その他副資材、物流費などのコストも厳しい状況に変わりはありません。加えて、マーケット全体の伸び悩みもあり、競合他社の中には値下げによる新規開拓を進める企業も現れ、ダイワボックスでもコスト管理が業務における最重要事項となっていました。

徹底した業務効率化と営業手法の導入だけでなく、新たな市場を開拓するべく、製品開発も同時に進めました。新製品の開発では、電子タグの取り組みを開始。電子タグの技術開発はICチップを中心としたもので、あらゆる分野での使用が検討され、マーケットの拡大が予測されていました。



多色グラビア印刷により
精度の高い印刷を実現

「ダイワボックス水性印刷マーク」を 商標として登録出願

2009年▶ 2009年、アメリカを震源とする金融危機は世界に広がり、原油価格も大きく揺さぶられました。その状況下、ダイワボックスの売り上げは目標に達しなかったものの、経営利益を確保しました。下半期に原油価格が急激に下降したことで、企業努力が相まってのことでした。

厳しい状況下で同社ならではの強みを発揮するために、製品の高付加価値化という新たな戦略を打ち立てました。その一環として、ISO規格の環境ラベル「ダイワボックス水性印刷マーク」を商標として登録出願を行いました。ISO環境ラベルとは、文言やシンボル、図形を通じて購入者に環境への取り組みをアピールするもののことです。環境マネジメントシステムの構築によって業界他社に先駆けてISO14001を取得したように、このマークを表示させることで、ダイワボックスのみならず取引先の環境対策としても認知されます。商標は翌2010年に登録査定が受理されました。

21世紀の豊かなパッケージを目指して

2021年▶ ダイワボックスは、2021年に創業70周年を迎えました。企業としての社会的責任、地球環境保全の視点に立って、全事業所で環境マネジメントに関する国際規格ISO14001の認証を業界に先駆けて取得。加工面においても、グラビア印刷の水性化を実現し、食品への一層の安全と、環境に配慮した製造技術を確認するなど、積極的な取り組みを行っています。

創業70周年を機に、ダイワボックスは、第二の創業の精神で、再び基本に立ち返り、お客様に満足していただける企業、社会に絶対必要とされる企業として、21世紀の豊かなパッケージ文化を提供し続けます。



ショールーム(本社 4F)

株式会社 ダイワボックス

本社所在地：大阪府東大阪市高井田本通 7-1-11

従業員数：66名 資本金：7,000万円

事業内容：セロファンならびに各種透明フィルムの販売および製品の加工 ほか